

多賀町立博物館「アケボノゾウ」 発見の歴史

多賀町立博物館ガイド

1993年2月 <アケボノゾウの化石発見>
びわこ東部中核工業団地開発時、偶然、
寛骨（おしりの骨）、左切歯の一部が見つ
かる。

1993年3月
全身の骨が産出

1993年4月

臼歯の植立した下顎骨が産出
右前あしは小さな骨までつながった完
璧な状態で産出した
老いた象らしいという事もわかった

1993年4月～1994年

化石クリーニング

1995年～1996年

レプリカから全身復元骨格を制作



1997年
完成

1999年3月
多賀町博物館開館

2022年3月15日
アケボノゾウ化石多賀標本が国の天
然記念物に指定
今も発掘調査をしている

【それは、このひとこと
から始まった】

1993 3/5 夕方









アケボノゾウとアンドロメダ銀河を つなぐ時空のはなし

アンドロメダ銀河はアンドロメダ座の星の群のあたりに肉眼でもぼっと見える銀河です。昔はガスの星雲と身分けなつたことからも、アンドロメダ大星雲とも呼ばれていました。その後、観測からおよそ 200 万光年かたにあることがわかり、現在は直径 25 万光年ほどの渦巻銀河であることがわかって、現在は渦巻銀河と呼ばれています。なお 1 光年とは光が 1 年間に進む距離のことです。およそ 10 兆キロメートルに相当します。つなぐアケボノゾウが生活していた時代と同じくらい遠い過去のアケボノゾウの姿を見ている事になるのです。もし今現在のアケボノゾウの姿から私たちの銀河系の中、アンドロメダ銀河の姿を見ている事から私たちの多賀町を見たら、そこでは 200 万年前のアケボノゾウが歩いていた多賀町の自然が見られるかもしれません。




アンドロメダ銀河 (M31)



アケボノゾウ

湖と生きる鳥
カイツブリ

天文望遠鏡
2017年10月15日



やっぱりゾウの牙だった



1993 3/5 夕方

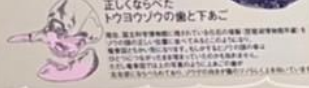
歳で、息子さんと2人で山を駆け回り、開いていたところ、11月7日か8日頃、えたいの知らない骨を見つけました。この発見は遠くまでわきになったため、市朗兵衛さんは代官所にときました。このえたいの知らない骨はとどきまに差し出され、当時の学者によって**龍の骨**だということになりました。発見場所には龍を祭るための祠(ほこら)が建てられました。



龍骨図
龍骨に属している骨の位置を示した図。龍骨は、龍の顎骨と推定されている。龍の顎骨は、龍の口を開くときに、龍の頭部を支える役割を果たしている。龍の顎骨は、龍の口を開くときに、龍の頭部を支える役割を果たしている。

「龍骨(リョウこつ)」の発見者、市朗兵衛さんはとどきまからごほうびとして米10石を与えられ、さらに「龍(リョウ)」という名字も与えられ、当時二人していた農地の板を免除されました。さらに化石を見つけてから13年後には代官にとりたてられるなど、化石を発見したことによって大きく人生が変わってしまいました。現在でも市朗兵衛さんのお子孫の龍さんは化石が発見されたところに住んでおられ、発見当時の記録帳や、今でも残っている祠を大事に守っておられます。化石の方はその後研究で種ではなく**トウヨウゾウ**というゾウの骨と分かり、現在では、その大部分が国立科学博物館に保管されています。

トウヨウゾウは、約50万年前から30万年前まで日本にいたゾウですが、アケボノゾウと同じステゴドンに近いです。



トウヨウゾウの顎骨(龍骨)の複製品

アケボノゾウの化石

河川の河原から見つかるたくさんのアケボノゾウの化石は、いつの時代のもので、どんな環境で暮らしていたのでしょうか。

この謎を解くために、滋賀県内の学校の3人の先生(田村幹夫氏、小早川隆氏、西森清氏)は、1990年頃から河原を歩いて、調査してきました。特に大雨が降った後などは、新しい化石が出てくるかも知れないため、かかさず河原を歩いていました。そんな20年にも及ぶ調査の末、1998年11月1日、地層に入ったままのアケボノゾウの化石を発見されました。

発見された化石は、アケボノゾウの顎骨です。アケボノゾウは、約50万年前から30万年前まで日本にいたゾウですが、アケボノゾウと同じステゴドンに近いです。

ゾウの咬合の構造

ゾウの咬合は、臼歯と切歯に分かれています。臼歯は、硬いものを噛み砕く役割を果たし、切歯は、硬いものを噛み砕く役割を果たします。



アケボノゾウの化石(複製品)



【牙を集める】

1993 3/6





【現場を確認、取り合えず
掘ってみよう】

1993 3/7夜～3/8早朝

と運搬
平成5年

白歯つき下顎の奇跡的な発見

1993 (平成5) 年



現場で発見された、歯がけいから人間の歯と見分けられ、発見して約半年後に動物園に送られた。



動物園に送られて運び出された。



正日間の発掘のとき、発見された歯の歯根から発見された歯の歯根が、歯根の下にある。



現場で発見された、歯がけいから人間の歯と見分けられ、発見して約半年後に動物園に送られた。



現場で発見された、歯がけいから人間の歯と見分けられ、発見して約半年後に動物園に送られた。



現場で発見された、歯がけいから人間の歯と見分けられ、発見して約半年後に動物園に送られた。



発見された歯の歯根が、歯根の下にある。



発見された歯の歯根が、歯根の下にある。



【鹿の化石で徹夜～シカタ ないか】

1993 3/7 夜～3/8 早朝



下の骨 (左側歯)

下アゴの骨 (下顎骨)

舌の付け根の骨 (舌骨)

腕骨

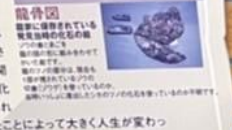
標本が



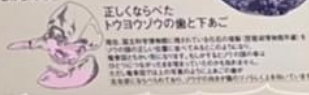
【ゾウはどこへ行った？
シカ では終われない】

1993 3/8

歳で、息子さんと2人で山を駆け回り、開いていたところ、11月7日か8日頃、えたいの知らない骨を見つけました。この発見は遠くまでわきになったため、市朗兵衛さんは代官所にときました。このえたいの知らない骨はとどきまに差し出され、当時の学者によって**龍の骨**だということになりました。発見場所には龍を祭るための祠(ほこら)が建てられました。



「龍骨(リョウこつ)」の発見者、市朗兵衛さんはとどきまからごほうびとして米10石を与えられ、さらに「龍(りょう)」という名も与えられ、当時二人していた農地の板を免除されました。さらに化石を見つけてから13年後には代官にとりたられるなど、化石を発見したことによって大きく人生が変わってしまいました。現在でも市朗兵衛さんのお子孫の龍さんは化石が発見されたところに住んでおられ、発見当時の記録帳や、今でも残っている祠を大事に守っておられます。化石の方はその後研究で種ではなく**トウヨウゾウ**というゾウの骨と分かり、現在では、その大部分が国立科学博物館に保管されています。



トウヨウゾウは、約50万年前から30万年前まで日本にいたゾウですが、アケボノゾウと同じステゴダのなかまです。



トウヨウゾウの骨(龍骨) 発見場所(和歌山県) 市朗兵衛さん

アケボノゾウの切歯(アケボノゾウの切歯)

河川の河原から見つかるたくさんのアケボノゾウの切歯は、いつの時代のものか、どんな環境で暮らしていたのでしょうか。

この謎を解くために、滋賀県内の学校の3人の先生(田村幹夫氏、小早川隆氏、西森清氏)は、1990年頃から河原を歩いて、調査してきました。特に大雨が降った後などは、新しい化石が出てくるかも知れないため、かかさず河原を歩いていました。そんな20年にも及ぶ調査の末、1998年11月1日、地層に入ったままのアケボノゾウの切歯の化石を発見されました。

発見された切歯の大きさと、これまでに発見された切歯の大きさを比較すると、アケボノゾウの切歯は、これまでに発見された切歯よりも、明らかに大きいです。これは、アケボノゾウが、これまで知られていたアケボノゾウよりも、明らかに大きかったことを示しています。

アケボノゾウの切歯の構造

アケボノゾウの切歯は、アケボノゾウの口から伸びる歯で、アケボノゾウの口から伸びる歯の中で、最も長い歯です。アケボノゾウの切歯は、アケボノゾウの口から伸びる歯の中で、最も長い歯です。アケボノゾウの切歯は、アケボノゾウの口から伸びる歯の中で、最も長い歯です。



トウヨウゾウの切歯(龍骨) 発見場所(和歌山県) 市朗兵衛さん



【ついに2本目が出たぞ、
2度目の徹夜】



1993 3/10~3/11朝

1993 (平成5) 年



調査に先立ち、現場の安全確保のため、関係者による安全説明会が開催された。現場の概況が説明された。その後、調査が開始された。(1993年3月25日)



掘出された肋骨と肋骨、手前の3本の肋骨は、肋骨(背骨の骨)。(1993年3月25日)



肋骨(背骨)の肋骨(背骨)。(1993年3月25日)



肋骨(背骨)の肋骨(背骨)。(1993年3月25日)



肋骨(背骨)の肋骨(背骨)。(1993年3月25日)



大きな骨は、右側で確認し、手前が肋骨(背骨)の肋骨(背骨)。(1993年3月25日)



掘出された肋骨(背骨)の肋骨(背骨)。(1993年3月25日)



肋骨(背骨)の肋骨(背骨)。(1993年3月25日)



肋骨(背骨)の肋骨(背骨)。(1993年3月25日)



肋骨(背骨)の肋骨(背骨)。(1993年3月25日)



肋骨(背骨)の肋骨(背骨)。(1993年3月25日)



【次々に骨が見えてくる、
もう限界だ】

1993 3/11 午後









多賀町博物館クイズ

5問正解して商品を手に入れよう！

① 1993年多賀町で発見された「アケボノゾウ」の化石は2022年3月に国の天然記念物に指定されました。陸上大型ほ乳類化石としては国内初ですが、先に大型動物化石として天然記念物に指定されたのはどれですか？

- ① ムカシマンモスゾウ
- ② 恐竜
- ③ ナウマンゾウ

② 日本の象の化石で、産出地域数が一番多いのは、ナウマンゾウです。その次がアケボノゾウです。アケボノゾウは象の進化の歴史の中で古い種類の象と考えられていたため、夜明けを意味する「あけぼの」から名付けられたと言われていています。さて、ナウマンゾウの名前の由来は何でしょう？

- ① ナウマンゾウはナウマン層という地層から見つかった。
- ② 長野県上水内郡信濃町奈羽間(なうま)で見つかった。
- ③ 化石研究者のナウマンという人からとられた。

③ 人間の骨の数は大体206と言われています。成長と共に骨同士がくっついて減ると言われます。さて、象の骨の数はいくつでしょう？

象の種類によって変わります。

- ① 326～351
- ② 212～243
- ③ 421～440

- ④ 化石から過去にはたくさんの種類の象が地球にいましたが、現在はアフリカゾウ、アジアゾウともう一種類の象が生息しています。何というでしょう？
- ① ダンボゾウ(ディズニーのアニメの主人公の名はここからとられた)
 - ② マルミミゾウ(森林に多く住む)
 - ③ イマミタゾウ(人間を見ると興奮して襲ってくる)

⑤ 多賀町の東側は鈴鹿山脈が南北にはしり、国の特別天然記念物の「カモシカ」が生息しています。「カモシカ」は何科の動物でしょう？

- ① うし科
- ② しか科
- ③ うま科

アクセス

電車の場合

近江鉄道 多賀大社前下車 徒歩25分

JR琵琶湖線（東海道線）「彦根駅」乗り換え 近江鉄道「彦根駅」から
「高宮駅」経て「多賀大社前駅」へ

バスの場合

JR琵琶湖線（東海道線）「彦根駅」下車の後、西口から湖国バス3番乗り場
「工業団地経由多賀町役場行」に乗車、「あけぼのパーク多賀」下車（乗車約20分）

自動車の場合

名神高速道路 彦根ICから国道306号線を八日市方面へ約5Km,多賀北交差点を東へ左折（10分）



終 了



ご清聴ありがとうございました。